

富士通株式会社による出前授業

10月17日（火）に1年生は、「地球1個分で暮らすために エコロジカル・フットプリントから考える」というタイトルで富士通株式会社の方による授業を受けました。

地球には自然の回復力があります。それを超えずに生活することが持続可能な社会へとつながります。しかし今、資源の使い過ぎにより、回復力の限界を超え、野生生物の絶滅や地球温暖化の加速など様々な地球環境問題が深刻化しています。世界中の人々が日本人と同じ暮らしをしたら、地球は2.3個必要といわれています。この授業では、資源と私たちの暮らしとの関わりを再確認し、地球1個分で暮らすためにはどうすれば良いのかを考え、行動していくことの大切さを学びました。

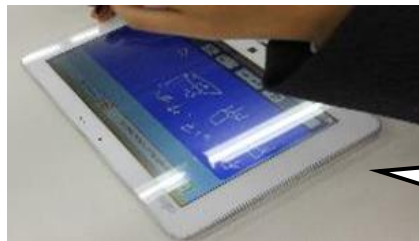
授業の導入では、地球にある様々な生態系と資源、私たちの暮らしがこれらの恵みに支えられていることを学びます。展開では、私たちは今、自然の回復力を超えた資源の使い過ぎにより、野生動物の絶滅、地球温暖化の加速などが引き起こされていること、またそれらを防ぐためにどうすればよいのかを考えます。最後に、エコロジカル・フットプリントとは何かを学び、自分の生活をチェックしたうえで、地球1個分で暮らすために自分たちにできることを考え、意見交流しました。



*エコロジカル・フットプリントとは

→私たちの生活がどれだけ地球環境に負荷を与えているかを表す指標。

また、この授業では生徒一人ひとりが1台のタブレットPCを使って自分の考えを書き込み、他の生徒との考えと比較しながら思考を深めることができました。



森林からの
様々な恵みを
考えました。



今日の授業では、今までまったく考えたことがなかった「地球何個分を使っているか？」という新たな観点から地球温暖化やエコについて考えることができて良かった。そして日本は2.9個分も使っていて驚いた。インドネシアでは1個分にも満たない地球でも暮らせるのに、日本ではなぜできないのだろう。それは、日本は人間が便利かどうかしか見えていないからだと思う。地球の自然が人間に色々な物を与えてくれていることを忘れてはいけない。忘れていたから今の現状がある。意識するためには、国レベルいや地球レベルで環境について考えれば良いと思う。そのための1歩として少しでも毎日毎日エコを心がけていきたい。

1年B組 Sさんより



自分の暮らしと
世界のつながりを
考えました。

各自何ができるかを考
え、班・クラス全体で
意見交流しました。

今の世界では、京都市、日本、世界とどんな大きさの規模でも地球1個が供給できる資源量をはるかに上回っていて、改めて数値化され、今世界がどれだけ申告な状態になっているかということを知らされた。このことを知ったからこそ、私たちはただ地球の経過をじっと見ておくだけでなく、実際に取り組まなければ知った意味が全くない。最後の10問チェックの問題で自分は、環境に負荷をかけないようにするためにできる簡単なことを、めんどうだ、楽をしたいなど身勝手な気持ちで放棄していることに気付いた。このような人間の自己中心的な気持ちが消えないから、一向に環境は良くならないのだと思う。そんな気持ちが消えないのは、環境問題を本当に深刻にとらえていないから、自分が優先されてしまうのではないだろうか。だから、私はこれから環境問題を、もっと身近に感じ一つ一つの行動で、私にできることは？と問いながら生活していきたいと思う。

1年C組 Yさんより

森林伐採が、どのように進められたのかを色分けして表した地図を見て、そのスピードと量に驚きました。森林の伐採によって起こる現象は、木を伐採することよりも、もっと解決することが難しいです。地球温暖化が進むことを抑えるには、二酸化炭素の排出量を削減しなければいけませんが、それは先進国に住んでいるから簡単にいうだけであって、途上国からすれば、仕事をとられているようなものなので、なかなかできないと思います。だから、二酸化炭素の排出量削減などについては、人間がもっと真剣に考えるべきだと思いました。このために個人的な活動で、できるだけエコマークがついているものを選び、節水・節電を心がけたいと思いました。

1年C組 Fさんより

今までの生活だと、地球が1.9個も必要になるというのは驚いた。インドネシアのように節約できている国もあれば、日本のような国がかなりの量の資源を消費しており、インドネシアのような国の節約では追いつかないということだ。今まで私は、技術が発達している国で多くの資源を使うのは仕方がないと考えていたが、自分の生活を見直すと、技術の発達と関係の無い「無駄遣い」が多いと分かった。これからは「無駄遣い」を減らして技術の発達した、ECOな日本になったらいいなと思った。

1年A組 Oさんより